

災害支援くしろネットワーク 設立趣意書

災害支援くしろネットワーク

世話人代表 佐々木 隆哉

この度の東日本大震災においては、東北を中心に東日本の多くの地域が災害に見舞われ、多くの方が犠牲となりました。震災で犠牲になられた皆様には心よりお悔やみを申し上げるとともに、震災にあわれた皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

道東地域はかつて、平成4年と平成14年に二回の大地震に見舞われ、東日本大震災とは比較になりませんが、港湾、建物、道路などに多大なる被害がありました。当時は最近のように地震が頻発しておらず、道東地域の地震は全国的に大きな注目を集め、全国から多くのお見舞いや、ライフライン復旧のため、多くの人的な支援を頂きました。

海に面した太平洋側地域では今回を含め、何度も小規模な津波が襲来し、被害を受けております。いつになるかはわかりませんが、10m級の津波に襲われる事も想定しておかなければなりません。その際は、街がどのような事になるのか想像したくはありませんが、我々又は我々の子孫が想像もできないような大きな被害を受け、多くの方々のご支援を受ける事態が起きる可能性は否定できませんし、海岸線沿いが壊滅的な被害を被った場合、内陸の市町村との連携と協力も不可欠であると考えます。

このような経緯をふまえ、この度有志が集まり、過去の震災における復旧のご支援を頂いた地域の人間として、義援金活動以外に何もせずがいいのだろうか、という思いから、災害支援くしろネットワークの設立に至りました。又、釧路市民のみならず、道東地域による組織的、継続的な震災地域への人的支援活動を実現するため、参集した有志の輪を広げ、様々な個人、企業、団体等が関われる地域一体的な組織としての活動運動を考えております。

この活動は震災地域の日でも早い復興の一助になりたいとの思いの他に、過去に受けたご支援への恩返しでもあり、さらにこの地域の多くの人々が復興支援に参加する事により、まだまだ不足していると思われる地域の防災意識の向上、そして若い人たちの社会貢献の意識向上にもつながることも期待しております。

全国でも様々な支援活動が開始され、東京の日本JC会館には“東日本大震災支援日本ネットワーク”が設立され、そちらでも全国的なボランティア支援が開始されました。当会も全国組織に登録をし継続的な人的支援を考えております。

この機会に我々が過去に培った経験を最大限に活用し、東北のため、そしてこの地域の為にも行動する決意でありますので、ご賛同を頂ける皆様には是非ともご参集頂き、ご一緒に活動をして頂ければ幸いです。皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます